

MINOURA

ダイレクトドライブ式トレーナー
取扱説明書

SmartTurbo KAGURA 神楽 LSF9300

(ver.1.0 2020/9)

【ユーザ登録のお願い】

添付のはがきもしくはメールにてユーザ登録をお願いいたします（メールアドレスのご提示もお願いします）。

本商品を安定してお使いいただくには、ご使用になるアプリのバージョンアップ等による仕様変更に対応するためのファームウェア更新が欠かせません。

ユーザ登録していただいた方にはこのような最新情報をメールでお知らせすることができますが、されていないとお伝えすることができず、結果的に使用できなくなったり不具合を引き起こす原因ともなりかねません。

また未登録の方は、弊社営業部による問い合わせや修理などの保守対応の開始・完了までに少々長めのお時間を頂戴することもあり得ます。趣旨をご理解の上よろしくご協力をお願いいたします。



<スイング可能モデル>

ダイレクト+スイング

ダイレクトドライブは、自転車の後輪を外したフレームをそのまま装着することで、タイヤスリップなどの伝達ロスがなくダイレクトにペダリングパワーを負荷装置に伝えることができる方式のトレーナーです。またタイヤも消耗しません。

また前フォークも専用前フレームに固定することで、より堅固で一体感のある走行感を得られます。LSF9300ではある程度左右に自転車を振ることができるスイング機構を搭載していますので、より現実のライディングに近づいた感覚で走行することができます。

互換性

- シマノおよびスラムの8, 9, 10, 11s 互換です。スラム XD/XDR には別売アダプタが必要です。カンパニョーロには非対応です。適合するリアsprocketギアはご自身でご用意ください。
- 日本仕様（AC100V 50/60Hz）です。海外で使用するには、対応するコンセントプラグのコード（別売）に交換していただく必要があります。ACアダプタはユニバーサルタイプです。

お問い合わせ先

<販売元>

株式会社 フカヤ

〒460-0015 愛知県名古屋市中区大井町 1-37-3F

Phone: (052) 228-8910 Fax: (052) 228-8917

Web: www.fukaya-nagoya.co.jp

<製造元>

株式会社 箕浦

〒503-2312 岐阜県安八郡神戸町下宮 134-1

Phone: (0584) 27-3131 Fax: (0584) 27-7505

Mail: register@minoura.jp Web: www.minoura.jp

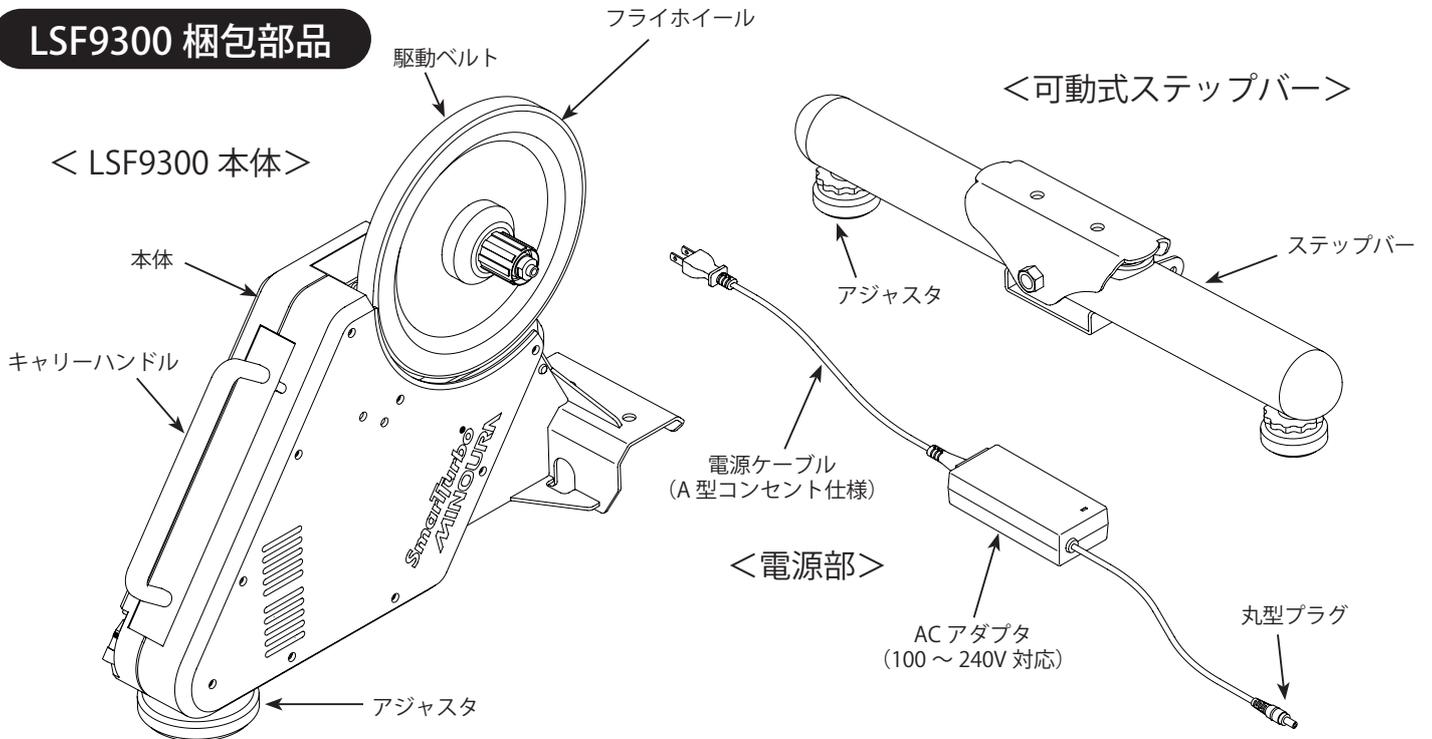
日本製

- 後輪ハブが、130/135mmの9mmクイックリリース式、あるいは142/148mmの12mmスルーアクスル式のものだけに対応しています。それ以外のサイズや、ピストのようなストレートエンドの車体には非対応です。ブーストハブにはオプションで対応しています。
- シマノおよびスラムの8,9,10,11sギアにのみ対応します。スラムXD/XDRを使用するには別売アダプタが必要です。カンパニョーロには非対応です。カセット式リアスプロケットギアは本商品には付属していませんので、ご自身の自転車に適合するものを別途用意していただく必要があります。
- 自転車を脱着する際はリアディレーラはあらかじめトップギアにセットしておくことを勧めます。それ以外では脱着がしにくくなります。
- 水平で平坦な床の上に設置してください。本体下の3ヶ所のアジャスタを正しく調整して、自転車が正しく直立しかつできるだけ水平になるようにしてお使いください。
- 高速で回転するフライホイールやベルトやチェーンに触れると怪我をしますから、絶対におやめください。
- 本体重量は20kg超、フライホイールだけでも10kgととても重いので、取り扱いには十分に注意を払ってください。
- 高負荷がかかったときや発進時にベルトのスリップを感じるようになれば、ベルトテンションを調整するタイミングに來ています。このとき固定ボルト①を1回転以上回さないでください。再ねじ込みができなくなります。(14ページ参照)
- 本商品は電子機器です。精密に作られていますので、倒したり衝撃を与えないでください。特にフライホイール部分は微小なバランスを取った製法で作ってありますので、歪ませてしまうと騒音や振動の原因になります。弊社の承認を得ない状態での勝手な分解や改造などは行なわないでください。いっさいの保証を受けられなくなります。
- 自転車フレームを固定するクイックリリースやスルーアクスルは正しく使用し、強固に固定するようにしてください。緩んでいると使用中に自転車が外れ転倒してしまう危険があります。
- 車体を無理に倒し過ぎないようにしてください。前フレームは動きに連動していませんから、前フォークを破損させてしまうおそれがあります。
- 日本仕様として作ってあります(AC100V 50/60Hz)。本商品を海外で使う場合は、A型プラグを使用している国以外(C型が一般的なヨーロッパや、BF型のイギリスなど)では、その国に対応する形状のコンセントプラグを持つ電源ケーブル(別売)に交換する必要があります。ACアダプタ自体は100～240V互換なので交換の必要性はありません。
- AC100Vの家庭用電源を利用する商品です。水に濡らしたり泥をかぶるような環境では使用しないでください。屋内であっても、埃やミストなどのかぶらないクリーンな環境でお使いください。
- 無線通信の使用が制限されている場所や、ペースメーカーなど電波により機能障害を起こすおそれのある装置を取り付けている方は、本商品の使用をお控えください。
- トレーニング中にかく汗やゴム脚キャップによる床やカーペットへの色移りや傷付きを防止するため、できるだけトレーナーの下にはバスタオルや「トレーナーマット4」などの専用マットなどを敷いて保護するようにしてください。
- 付属のACアダプタ以外は使用しないでください。LSF9300を使用中にもし異常な音やにおいなどを感じた場合はすぐに使用を中止し、お買い求めになった販売店にご相談ください。修理は弊社でのみ可能です。販売店では行なえません。弊社の承諾なく勝手に分解したりするとメーカー保証を受けられなくなり、すべての対応が有償になります。
- 弊社は、LSF9300をご購入された日から起算して1年間の、メーカー側に製造上の瑕疵があるトラブルに関する品質保証を行っております。購入日の記録となるレシートや納品書などは必ず保存しておいてください。この説明書で指示されている以外の方法や目的で本商品を使用した場合や、通常予期できる部品の自然摩耗・消耗については、保証期間中であっても有償対応となります。

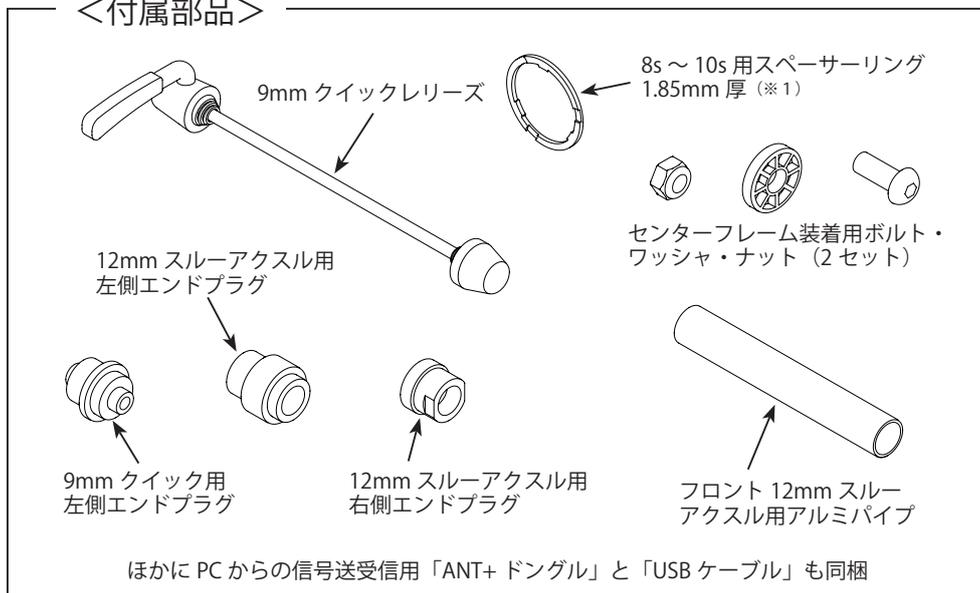
メーカー保証は正式にユーザ登録をした方のみが受けられる特典です。添付カードに従って登録を行なってください。保証は日本国内で使用している間に限り有効です。海外で使用する場合は弊社にご相談ください。輸送中の衝撃によるダメージなど工場出荷後のトラブルにつきましては、弊社ではなく、担当した運送業者に直接お問い合わせください。詳しくは添付の「製品保証規定」カードをご参照ください。また最新情報については弊社ウェブサイトをご参照するようにしてください (<http://www.minoura.jp>)。

●使用するアプリ（ソフトウェア）については弊社の担当外となります。問題があれば各開発先にお問い合わせください。

LSF9300 梱包部品



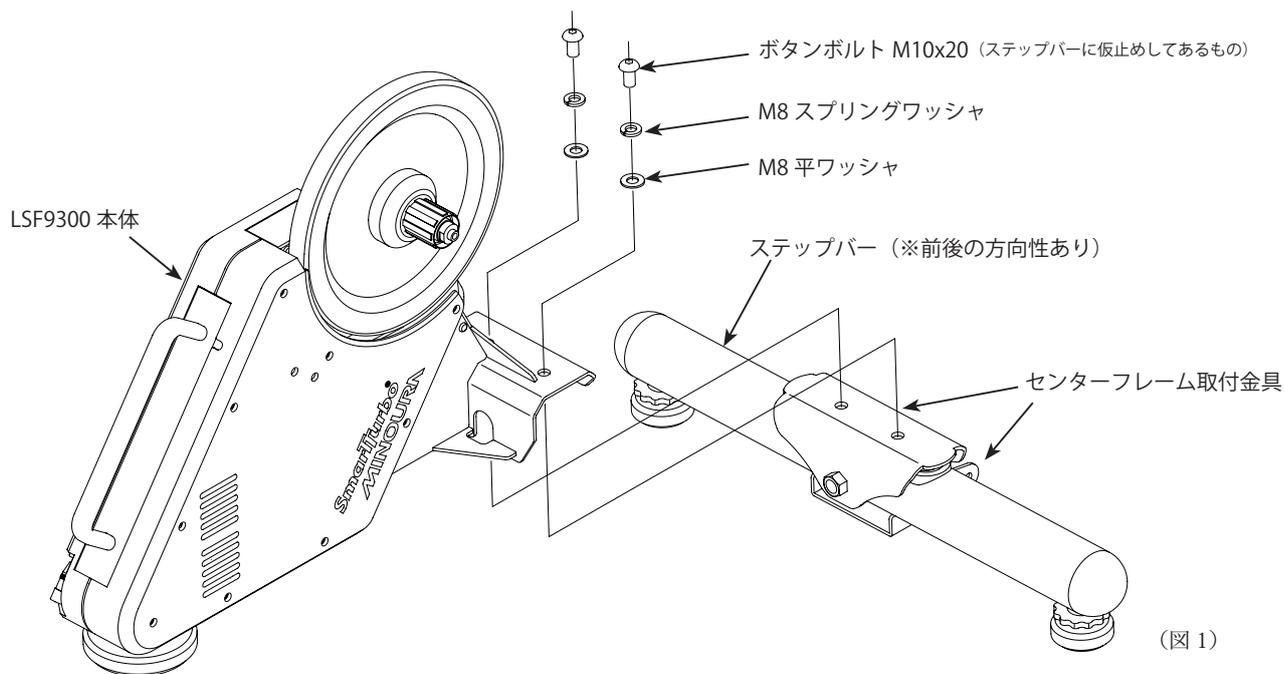
<付属部品>



※1 8s や 9s の場合はこれだけを使用します。
 10s の場合はこれとスプロケットギアに付属の 1.0mm 厚スペーサーリングの両方を使用します。

<別途手配品>





1 ステップバーを本体に取り付けます

ステップバーを本体前部の板金具の下に置き、上からボタンボルト M10x20 でしっかりと固定します。(図1)



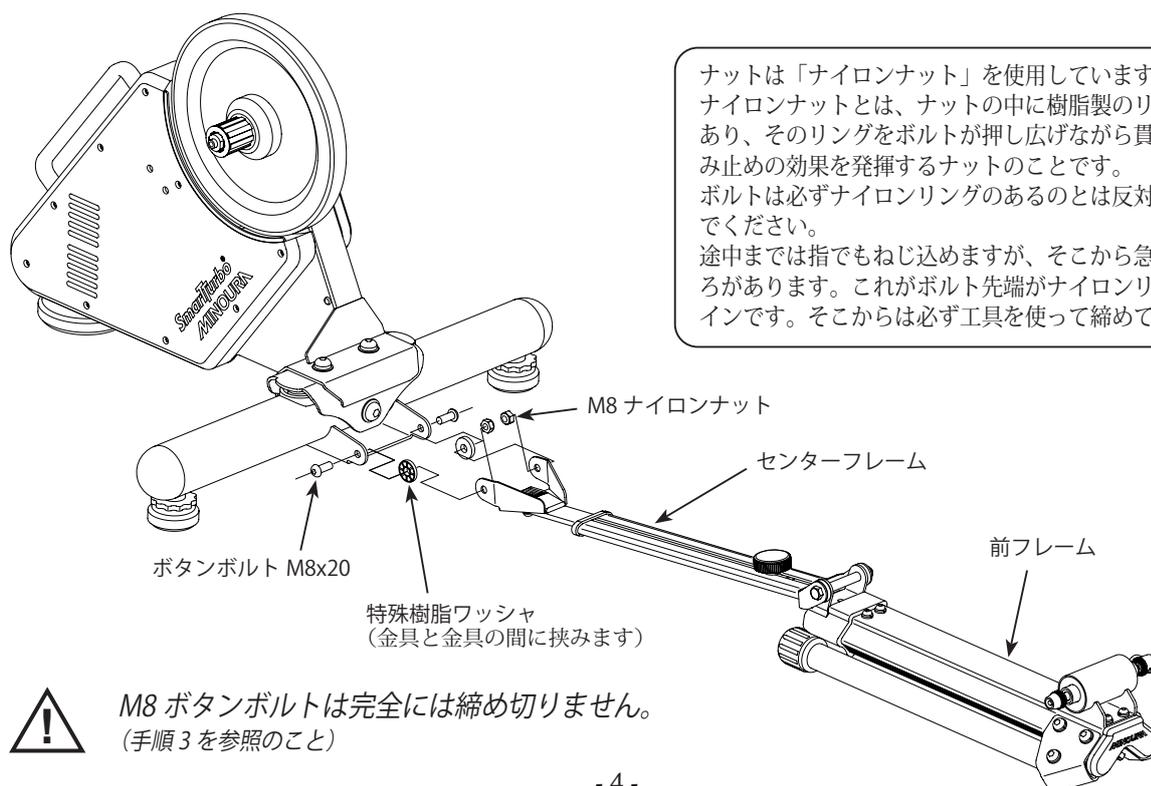
ステップバーには方向指定があります。センターフレームを接続する爪状の金具がある方が前向きになります。誤った向きではセンターフレームが装着できません。



LSD9200 にあったステップバーの折りたたみ収納機構は、LSF9300 にはありません。収納形態は LSD9200 とは異なった姿となりますのでご注意ください。

2 ステップバーにセンターフレームを取り付けます

前フレームにあらかじめ取り付けられているセンターフレームを開き、その先端をステップバー中央部にある金具にボタンボルト M8x20 と樹脂ワッシャとナット（専用袋部品で供給）で取り付けます。(図2)



ナットは「ナイロンのナット」を使用しています。ナイロンのナットとは、ナットの中に樹脂製のリングが封入されており、そのリングをボルトが押し広げながら貫通することで緩み止めの効果を発揮するナットのことで、ボルトは必ずナイロンのリングのあるのは反対側からねじ込んでください。途中までは指でもねじ込めますが、そこから急に固くなる場所があります。これがボルト先端がナイロンのリングに達したサインです。そこからは必ず工具を使って締めていってください。



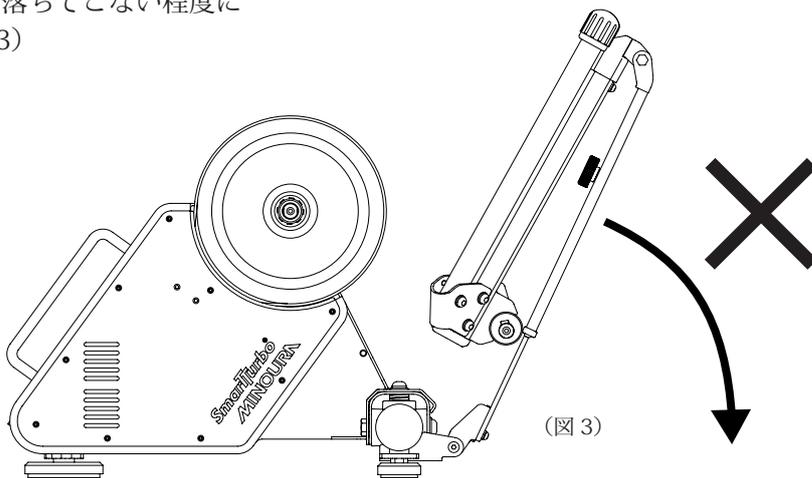
M8 ボタンボルトは完全には締め切りません。(手順3を参照のこと)

3 ボルトの締め付け具合をチェックします

前フレームをセンターフレームの上に畳んで載せ、そのまま持ち上げます。斜めになったセンターフレームが自重で落ちてこない程度にボルトの締め付け量を調整します。(図3)



収納時や運搬時に不意に落ちてきて指などを挟んで怪我をするのを防ぐためです。必ず行なってください。



4 自転車のホイールベースサイズ（前後輪の車軸間の距離）を測り、センターフレームの突き出し量をスケールを目安に合わせます

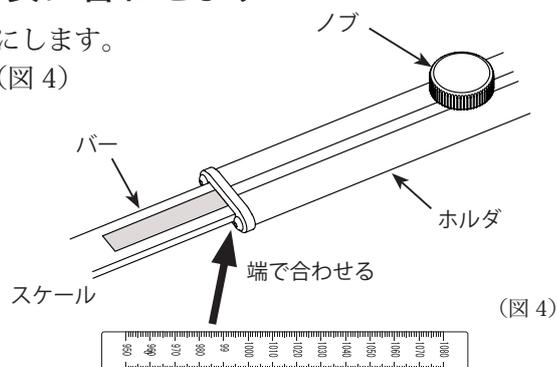
センターフレーム上部のノブを緩め、中のバーを伸縮できるようにします。ホルダ部の端を目盛りに合わせて長さを決め、ノブを締めます。(図4)



スケールが短くて合わせられない場合もあります。その際はノブは締めず、バーが自由に動くようにしたままで、後で実車に合わせて決めます。



ホイールベースは 900 ~ 1,210mm の範囲で調節できます。これ以外の寸法の自転車は対象外となります。



5 本体の後輪ハブ軸部分および前フレームの前フォーク受け部分を組み替えます

お使いになる自転車に合わせて、7ページの「12mm スルーアクスル対応ハブへの替え方（後輪）」、8ページの「スプロケットギアの装着のしかた・外し方」、9ページの「12mm スルーアクスル対応ハブへの替え方（前輪）」を参照してください。

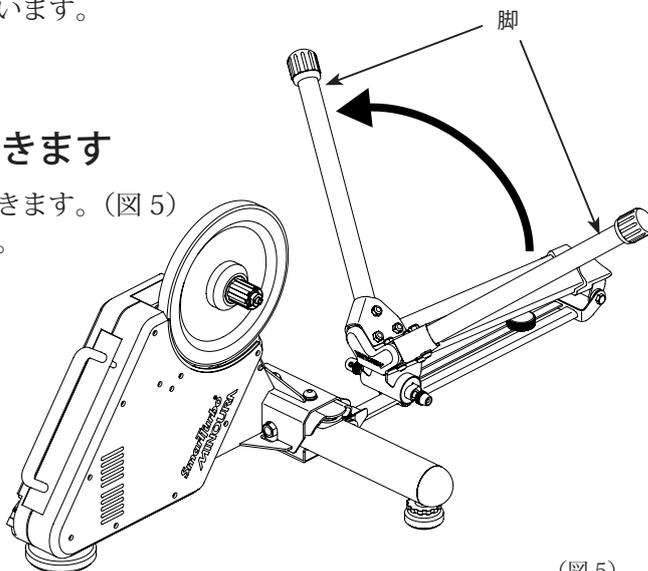
以下の説明は 135mm クイックリリース式を前提としています。

6 前フレームの脚を両方ともいっぴいに開きます

次の手順をやりやすくするために、今のうちに開いておきます。(図5)
自転車はこの開いた脚の間に置いて取り付けていきます。

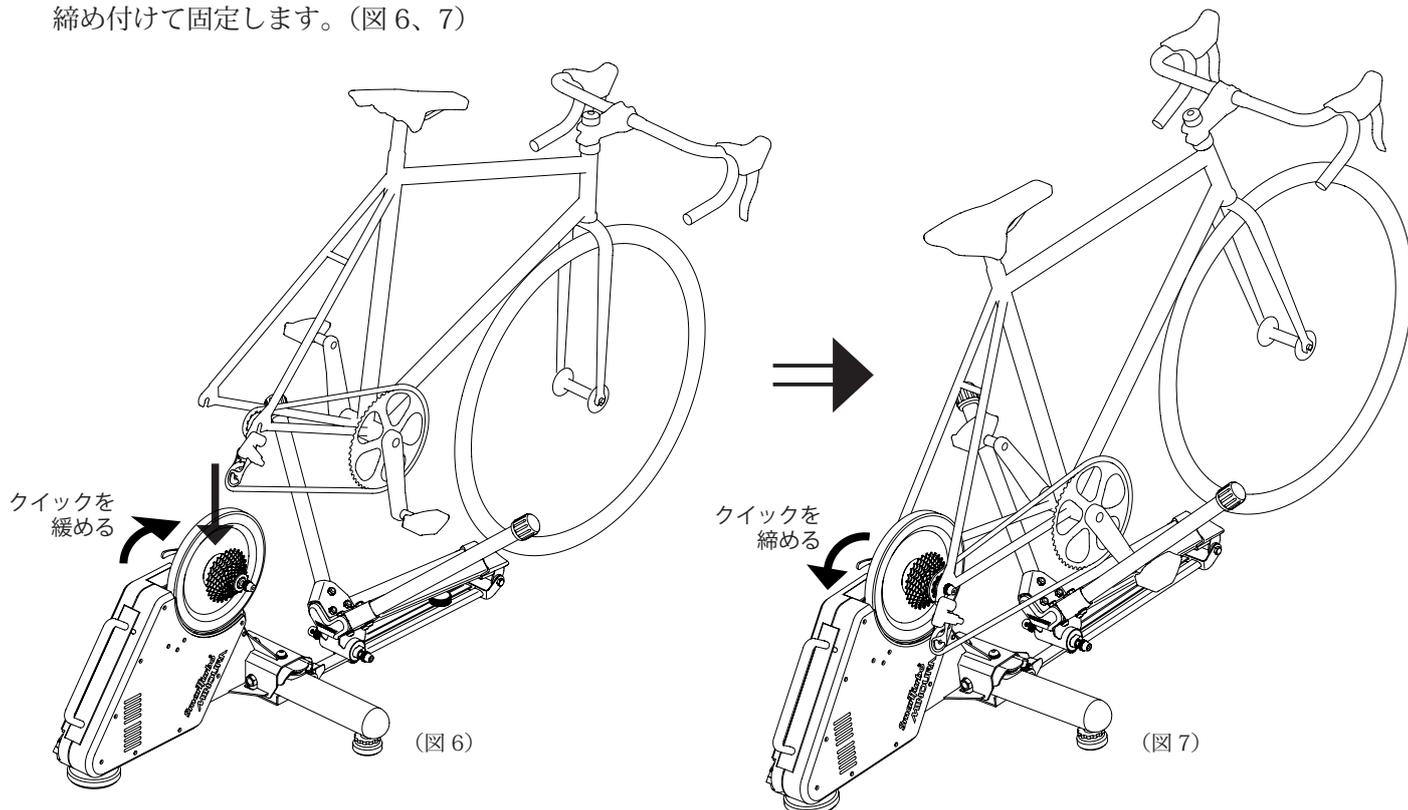


クイックリリースの使い方については熟知しているという前提で説明を進めています。もし自信がない場合は、十分なスキルのあるメカニックに教授してもらってください。



7 自転車を載せます

自転車の後輪を外し、本体のフレームリアエンド受け部にはめ込み、規定の手順でクイックなりスルーアクスルで締め付けて固定します。(図6、7)



5 前フォークを前フレームに取り付けます

片手で自転車を持ち上げて支えながら、折り畳んであった前フレームを伸ばして床に置きます。まずその前フォーク受けの上に前輪を仮置きします。(図8)

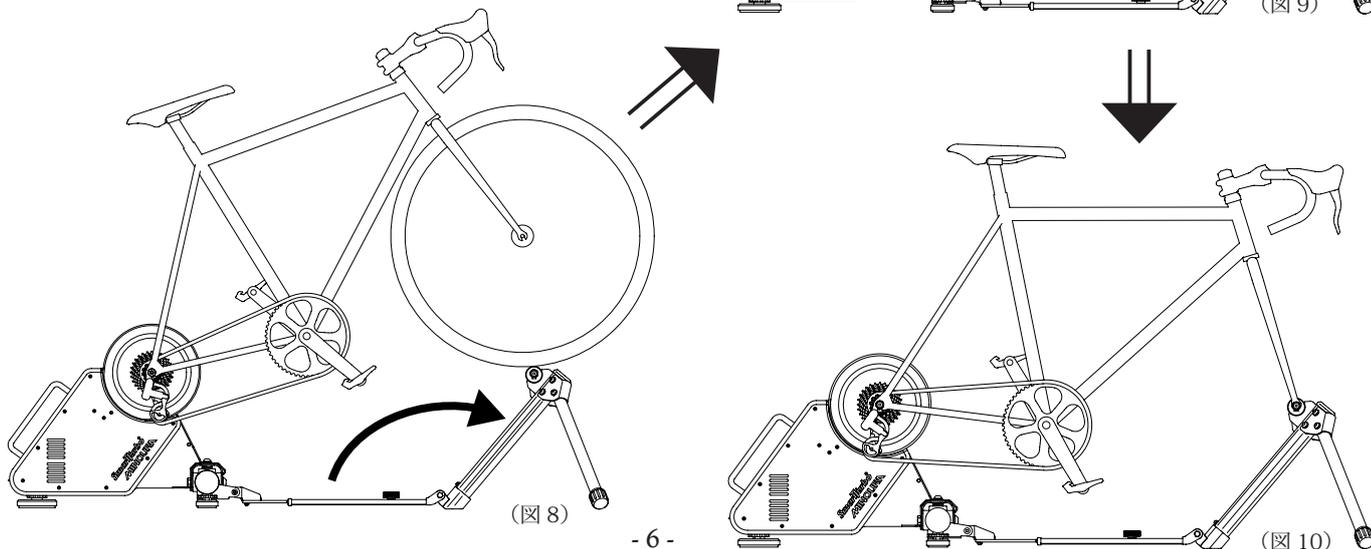
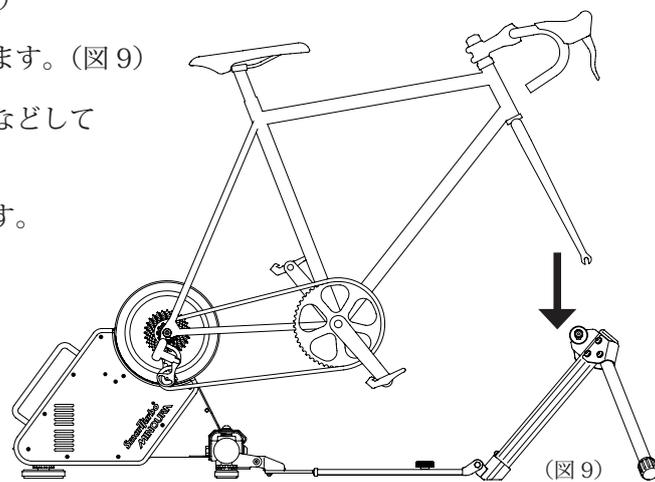
前輪を取り外し、前フォーク受けに向かって下ろしていきます。(図9)

最後に前フォークの先端をクイックリリースを締め付けるなどして前フォーク受けにしっかりと固定します。(図10)

最後にセンターフレームのノブをしっかりと締めて完了です。



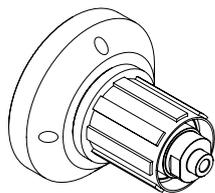
センターフレームの合わせが正しくないとうまく前フォークが所定の固定位置に来ません。センターフレームのノブを緩め、前後に微調整しながら前フォークを装着します。



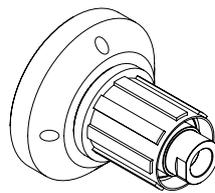
12mm スルーアクスル対応ハブへの替え方（後輪）

LSF9300 の後輪スプロケットハブは、標準では 9mm クイックリリース用で組んであります。

もしお使いの自転車が 12mm スルーアクスル式の場合はそのままでは使えませんので、ハブ右端に装着してあるプラグ（軸金具）を付属の 12mm スルーアクスル用のものに取り替える必要があります。

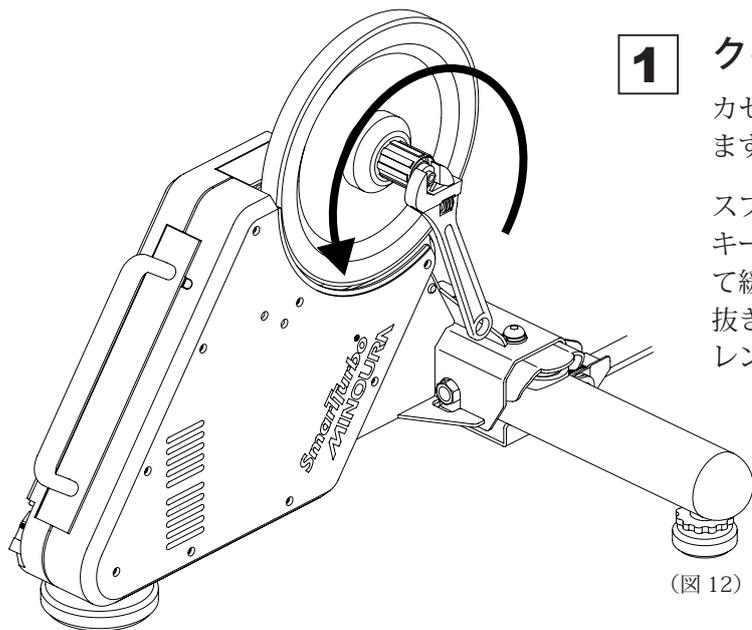


9mm クイックリリース用ハブ端
(中心の貫通孔が小さい)



12mm スルーアクスル用ハブ端
(中心の貫通孔が大きい)

(図 11)



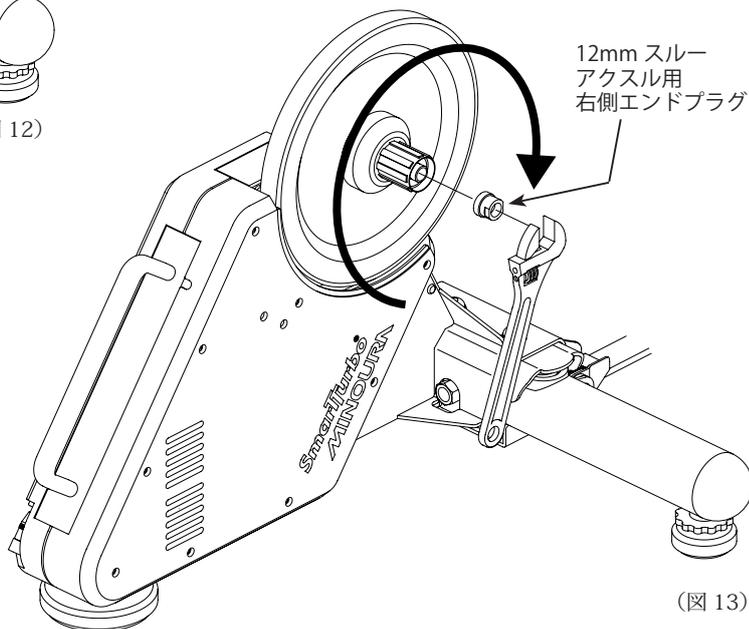
(図 12)

1 クイック用プラグを抜きます

カセットスプロケット（ギア）の付いていない状態で行ないます。付いている場合は外しておいてください。

スプロケットハブ右端のプラグに中型以上の大きさのモンキーレンチを掛け、並行部分をレンチで挟み、左回りに回して緩めて抜きます。(図 12)

抜きにくい場合はスプライン部分を手で持って保持しながらレンチを回します。



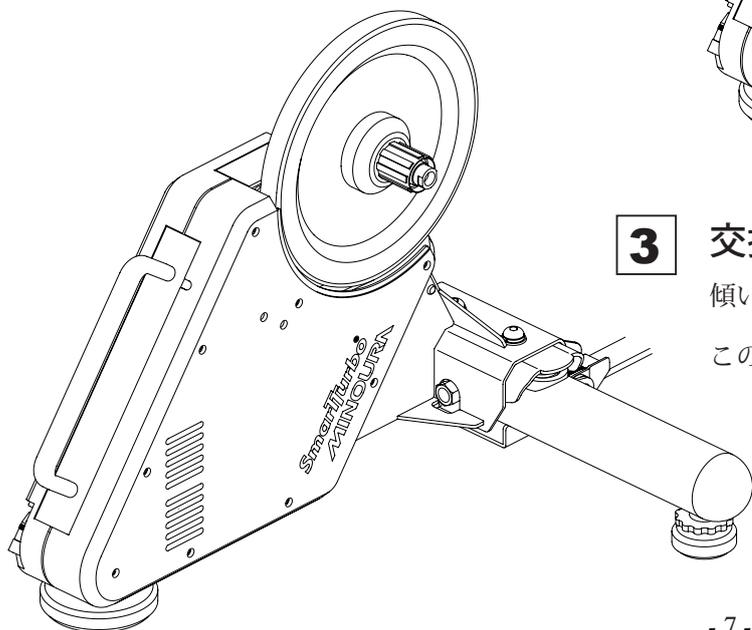
12mm スルー
アクスル用
右側エンドプラグ

(図 13)

2 スルーアクスル用プラグを装着します

付属の 12mm スルーアクスル用右側エンドプラグをハブ端に装着します。

右回りに手でいっぱいまでねじ込んだあと、レンチで締めます。(図 13)



(図 14)

3 交換終了

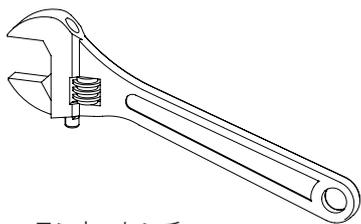
傾いたりガタついたりしていないかを確認します。(図 14)

この上にカセットスプロケットギアを通して取り付けます。

(スプロケットギアの取り付け方については、8 ページの「スプロケットギアの装着のしかた」を参照のこと)

スプロケットギアの装着のしかた・外し方

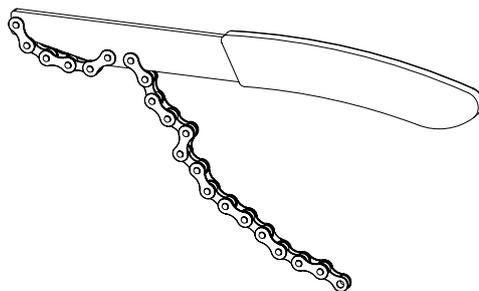
使用する工具（別途用意してください）



モンキーレンチ
(できるだけ大きい方が作業が楽)



ロックリング工具
(シマノ製スプロケットに使えるものなど)



(図 15)

スプロケット外し
(取り付けたスプロケットを取り外す場合に使用)

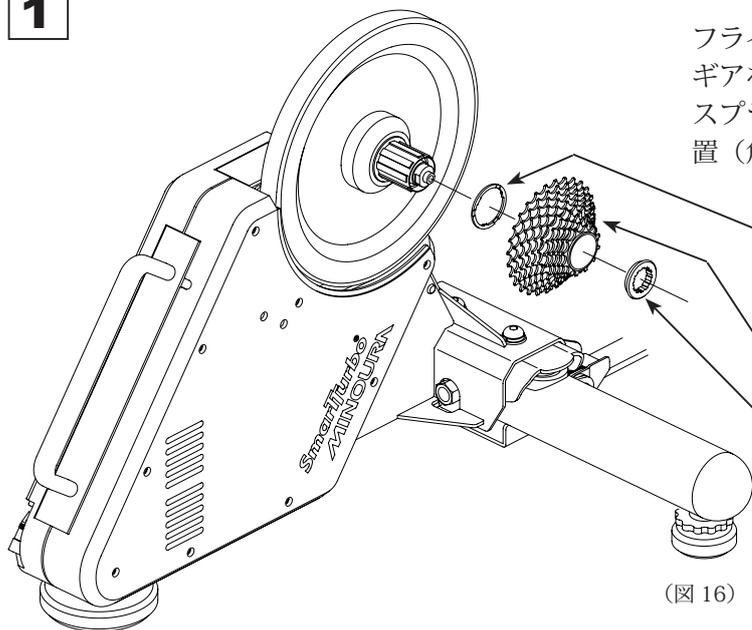
スプロケットギアの装着のしかた

1

スプラインにカセットギアを通します

フライホイールの中心右側にあるスプラインに、スプロケットギアを挿入します。(図 16)

スプラインは1本だけ幅が広く作ってあるので、ギアの入る位置(角度)はひとつに限定されています。



(図 16)

8s～10s スプロケット用スペーサーリング 1.85mm 厚 (商品に付属)
(※ 8s・9s の場合はこれのみ使用。10s ではスプロケットに付属の 1.0mm 厚も併用します。基本的に 11s では使いませんが、一部 MTB 用ギアでは厚さを合わせるため使用することもあります)

スプロケットギア (ご自身で用意したもの)

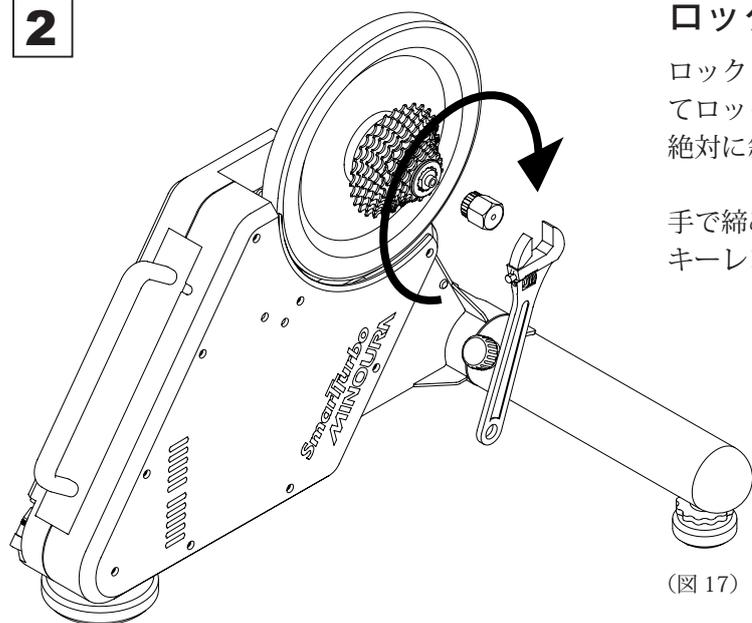
ロックリング (スプロケットに付属)

2

ロックリングで固定します

ロックリング工具をロックリングにいっぱい挿入し、右に回してロックリングをスプロケットに手でねじ込んでいきます。絶対に斜めにねじ込まないように注意を払ってください。

手で締められるところまで締めたら、ロックリング工具にモンキーレンチを掛け 30～50N.m で締め込み固定します。



(図 17)



ロックリング工具は、必ず使用するスプロケットギアにぴったりとフィットするものを使用してください。

もしがたつきがあるまま使うと、スプライン部分をなめたり工具が破損する恐れがあります。



ロックリング工具は、必ず最後までしっかりと挿入してから回してください。

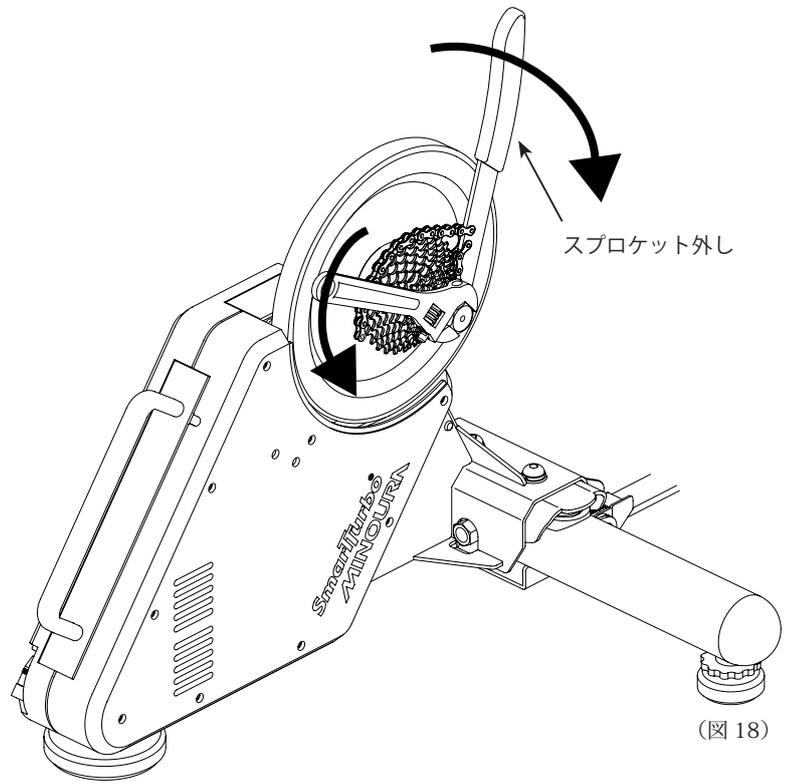
浅く掛かっただけで使うと歯の部分が欠けたりします。

スプロケットギアの外し方

使用するコンポが変わったなどの理由でリアスプロケットギアを外すには、ロックリング工具のほか、スプロケット外しと呼ばれる工具が必要になります。

まずスプロケット外しを図 18 のようにできるだけ大きいギアに掛けておきます。これはロックリングを緩める方向に回すとギアがハブごと共回りしてしまうのを抑えるためです。

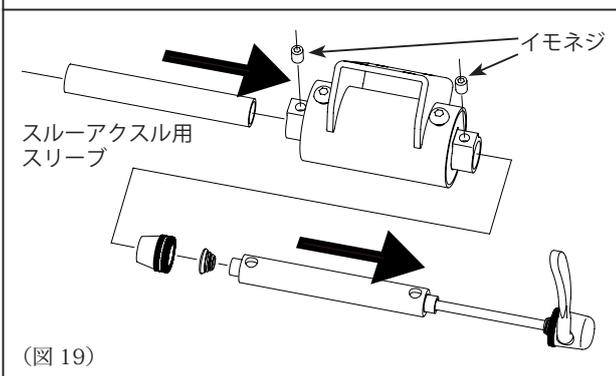
ロックリング工具をロックリングにしっかりと奥まで差し込みモンキーレンチを掛けて左回りに、スプロケット外しは右回りに、同時に回します。これでロックリングは緩みますので、あとは手で回して抜き取ってください。



(図 18)

12mm スルーアクスル対応ハブへの替え方 (前輪)

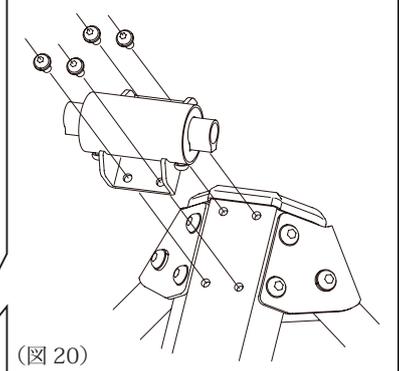
12mm スルーアクスルアダプタへの換装



(図 19)

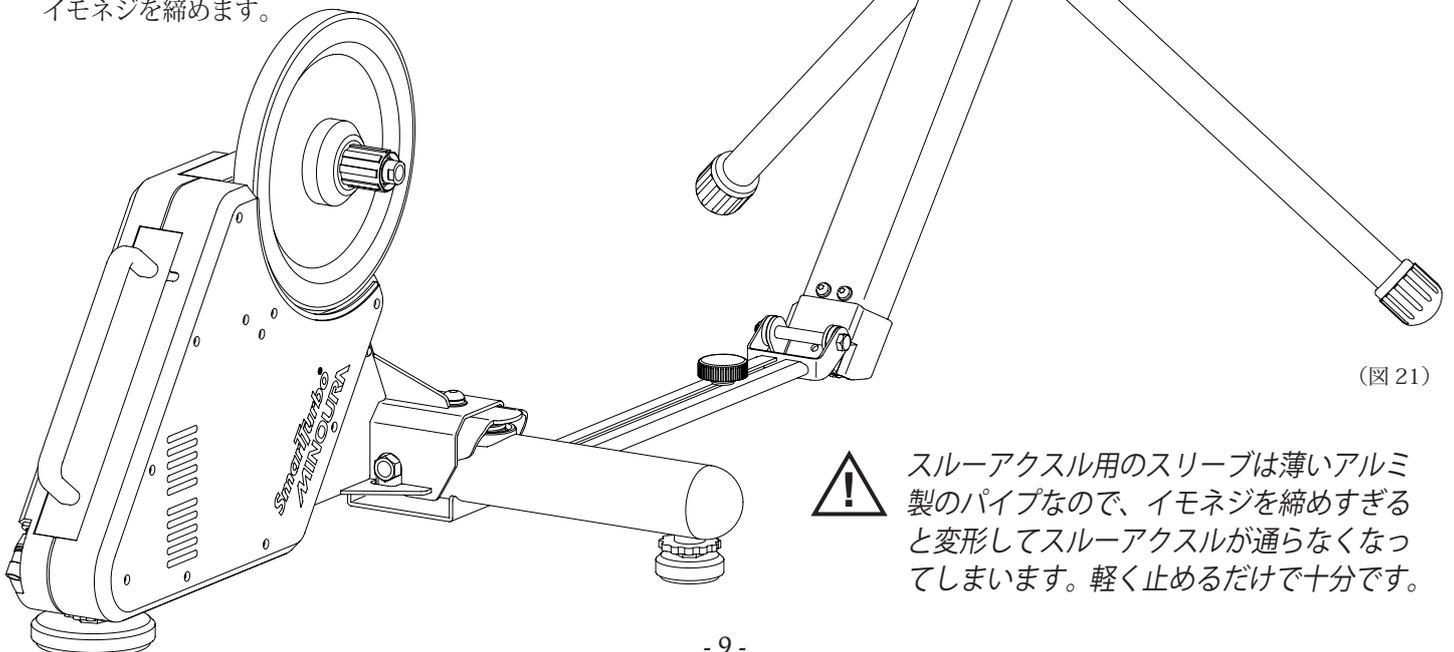
クイックのナットを緩め引き抜いておきます。裏側のイモネジを 2 本とも大きく緩めます。内側のスリーブのみを抜き取り、添付のものとの交換します。イモネジを締めます。

ブーストハブアダプタ (オプション)



(図 20)

前フォーク受けごとオプション品に交換します。



(図 21)



スルーアクスル用のスリーブは薄いアルミ製のパイプなので、イモネジを締めすぎると変形してスルーアクスルが通らなくなってしまいます。軽く止めるだけで十分です。

9mm クイックリリースの装着

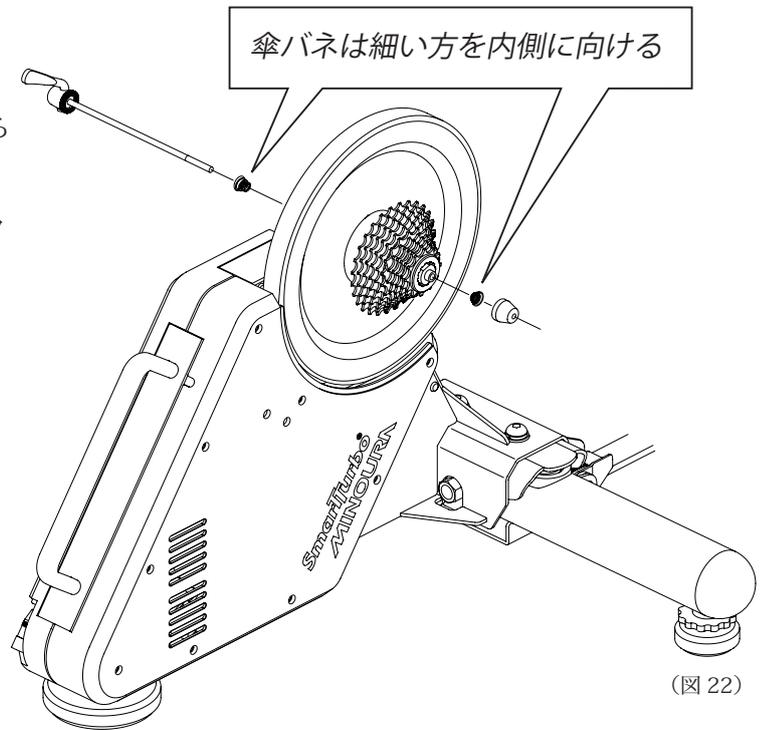
クイックリリースはいったん分解し、ハブ軸に通してから再び組み立てます。

まず 9mm クイック用シャフトに傘バネと左側エンドプラグを通し、本体のハブ軸の左側に挿入します。(図 23)
 続いて反対側に突き出したシャフトにも傘バネを通しナットをねじ込みます。(図 22)

このとき傘バネはどちらも径の小さい方(すぼまった方)を内側に向けます。逆向きでは正しく装着できません。

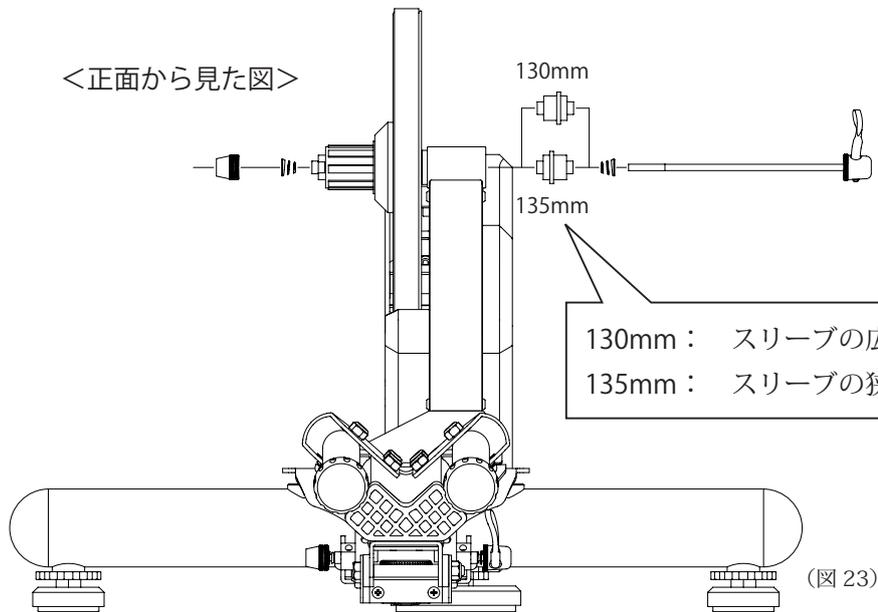
左側エンドプラグの方向

自転車フレームのエンド幅は 130mm と 135mm の 2 サイズにだけ対応しています。
 エンド幅サイズに合わせて、左側エンドプラグの挿入方向を変えます。(図 23)



(図 22)

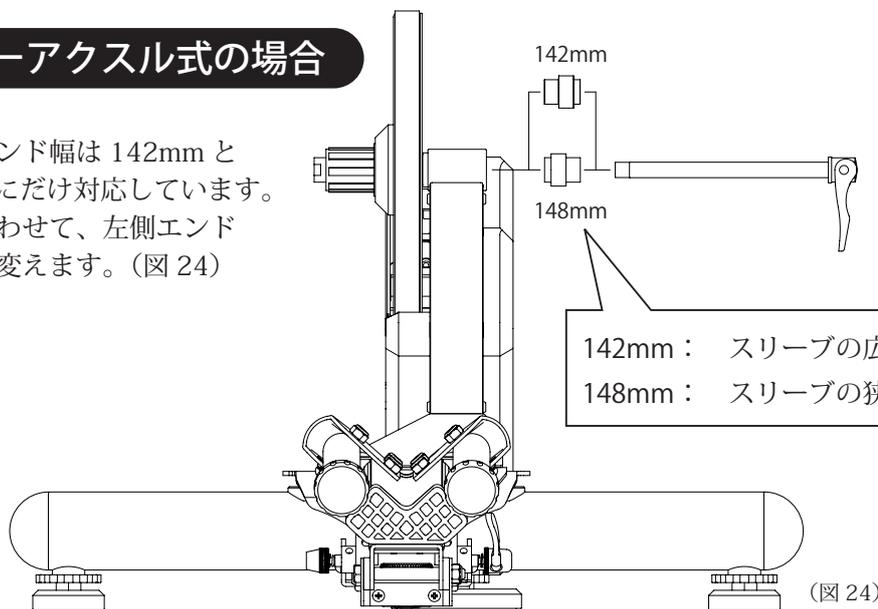
<正面から見た図>



(図 23)

12mm スルーアクスル式の場合

自転車フレームのエンド幅は 142mm と 148mm の 2 サイズにだけ対応しています。
 エンド幅サイズに合わせて、左側エンドプラグの挿入方向を変えます。(図 24)



(図 26)

(図 24)

12mm スルーアクスルの装着と自転車の取り付け方

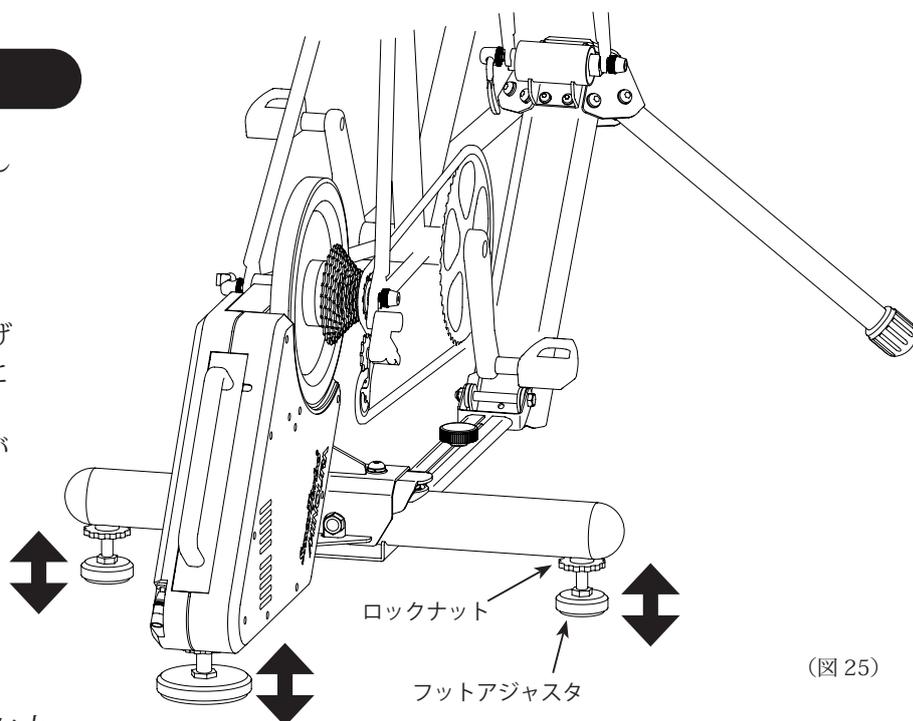
- 1 まず 12mm クイック用左側エンドプラグを、本体のハブ軸の左側に挿入します。(図 24)
ハブ軸の右側も 12mm スルーアクスル用のものに交換されていることを確認してください。(図 11)
- 2 自転車フレームを LSF9300 の後輪ハブの上に持っていき、そのまま手で保持しておきます。
- 3 まずアクスルシャフトをフレーム左側リアエンドにある孔に挿し、そこからフレームを少し下ろして孔位置を合わせます。
続いてシャフトを左側エンドプラグを通してハブ芯の孔に挿入します。
自転車の位置や角度はここで決まります。
- 4 そのままスルーアクスルをフレームの右側リアエンドのねじ孔にねじ込みます。
スキュワ式の場合はそのままねじ込んでいき、クイック式の場合はねじ込み量を適度に調節しながら最後にレバーを倒してしっかりと固定します。

フットアジャスタの調整

本体下面に 3ヶ所あるアジャスタの突き出し量を調整して、自転車が正しく直立しつつ、がたつきなく設置されるようにします。(図 25)

またこれは、アジャスタを 3 本とも上げ下げすることで車体全体が前後水平になるように調節することにも使います。たとえば 29 インチ車の場合は 3 本とも伸ばして、全体が後ろ下がりになってしまうのを防ぎます。

アジャスタは全体を回して突き出し量を調節し、最後にロックナットを本体側あるいはステップバー側にいっぱい締め込むことで固定・維持します。



(図 25)

 ロックナットを正しく使わないと安定して使用できません。

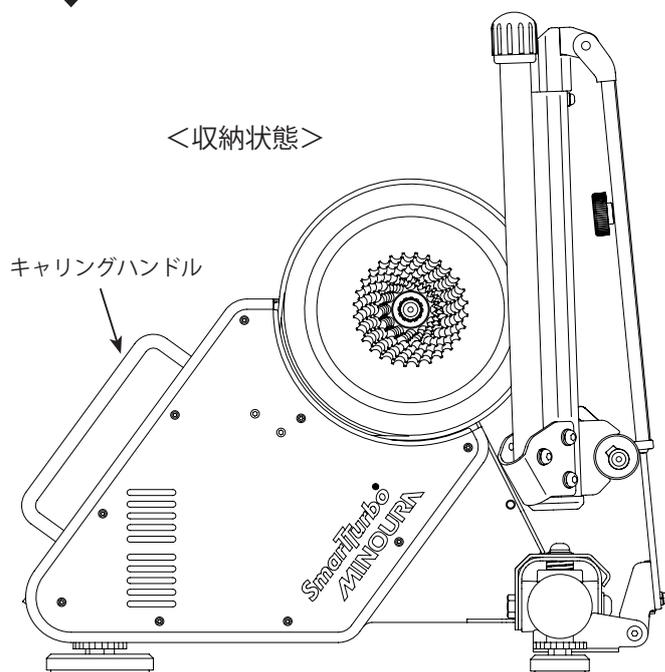
LSF9300 を使わないときは

LSF9300 には、ステップバーの折りたたみ機構は備わっていません。

使用しないときの LSF9300 は、脚を折りたたんだ前フレームをセンターフレームの上に重ねて載せ、それをさらに本体側に折り曲げた状態で保管します。(図 26)

このとき前フレームが自重で下がってこないよう、連結ボルトの締めつけ具合は緩すぎないようにしなければなりません。

次の使用に備えて、センターフレームのノブは緩めず長さを維持したままで折りたたみますが、前フレームが本体に早くに当たってしまい直立しないようであれば、少し伸ばした状態で保管する必要があるかもしれません。



(図 26)

自転車を左右にスイングさせる

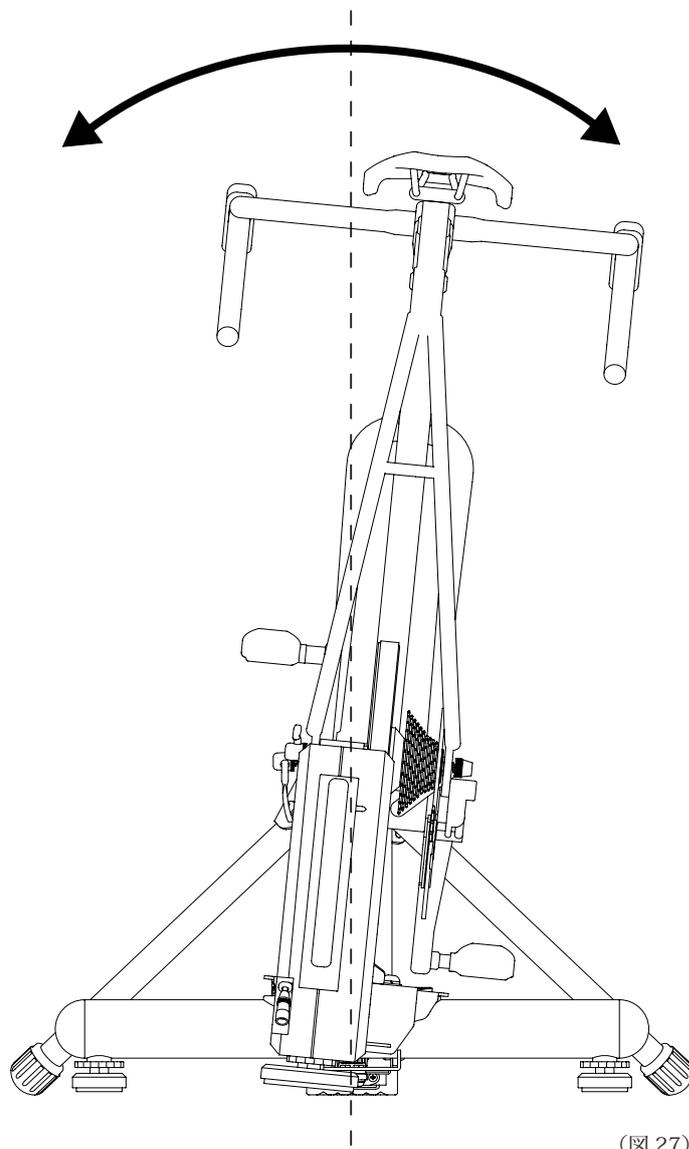
LSF9300 は、多少ながらも自転車を左右に振って乗ることができる構造になっています。一部のトレーナーにはこの機構を持ったものがありましたが、ダイレクトマウント方式を含むほとんどのモデルには備わっていません。

室内トレーナーが路上での実走といちばん異なる感覚（フィーリング）になるのが、車体が完全がっちりど固定されてしまっていることで、自然な乗り味がいっさいなくなってしまうことです。

これを解消するため、LSF9300 では本体に対してステップバーをバネで浮かせた「フローティング構造」として、左右に体重をかけるとわずかですが車体を傾かせることができる、つまり、限度はありますが、自転車を左右に振りながら乗ることが可能になっています。

スイングできるのは本体だけで前フレームはできない（前フォークを受けている部分はウレタンでマウントしており、完全固定しているわけではなく多少は動いてもいいようにはなっていますが）ため、無理に傾けようとすると前フォークを破損させてしまうおそれがあることだけは忘れないでください。

 バネの交換は専用の治具が必要となるため、ご自身やショップではできません。必ず弊社に依頼してください。



(図 27)

電源の接続と動作確認

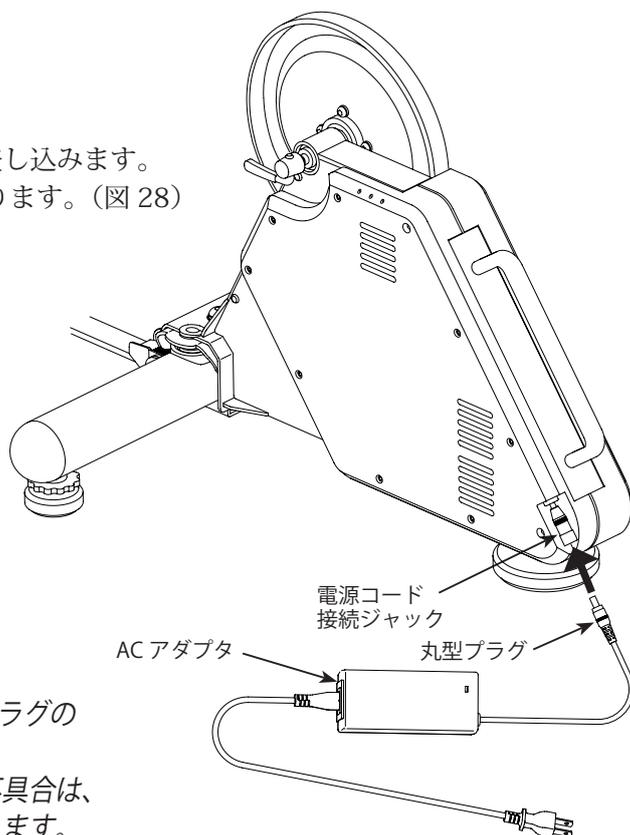
商品に付属の AC アダプタの丸型プラグを本体後端のジャックに差し込みます。続いて電源プラグをコンセントに差し込みます。これで電源が入ります。(図 28) 電源を切るには、コンセントから電源プラグを抜くだけです。

 LSF9300 は電源スイッチを備えていません。コンセントに接続することで電源が入ります。抜けば切れます。

 電源コードを引っかけるなどして強い力を与えないでください。中の基盤等が破損します。

 コードを抜くときは必ずプラグを持って行ってください。断線する恐れがあります。

 商品に付属のもの以外の AC アダプタは、いくらプラグの形状が似ていようが使用しないでください。誤ったものを使用したことによる内部損傷などの不具合は、たとえ保証期間内であったとしても有償対応となります。



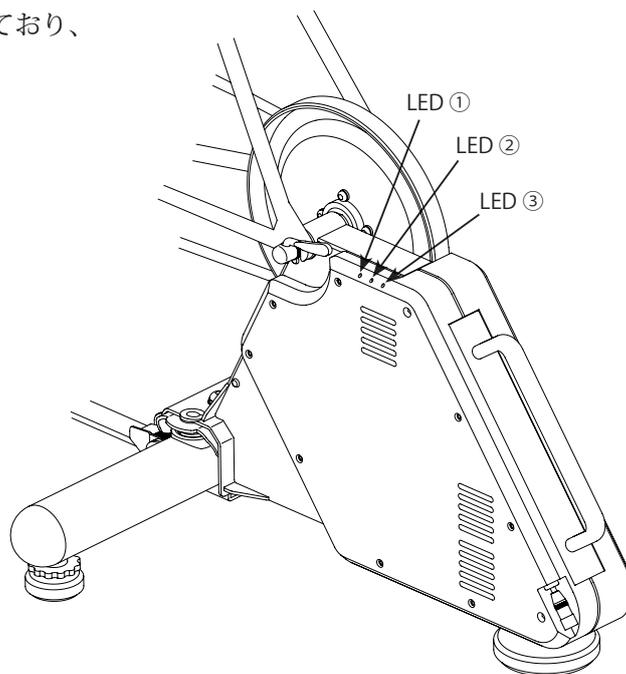
(図 28)

LED の表示パターンと意味

本体左側上部には、通電と動作状態を示す LED が3つ埋め込まれており、4色に発光してその状態を示すようになっています。(図 29)

LED ①	赤色・・・電源
LED ②	青色・・・Bluetooth 接続 緑色・・・ANT+ 接続
LED ③	黄色・・・ケイデンスセンサ接続

それぞれの点灯状態が示す機能説明については弊社ウェブサイトの「神楽 LSF9300」のページに記載してありますので、お手数ですがそちらをご参照ください。
<http://www.minoura.jp/japan/trainer/smartturbo/lsf9300.html>



(図 29)

<電源投入直後の状態>	LED ①・・・赤色点灯
	LED ②・・・青色点滅
	LED ③・・・黄色点滅



ANT+ での接続は、付属の USB ケーブルに同梱の ANT+ 用レシーバ「ANT+ ドングル」を接続したものを、PC 側に接続した状態でなければなりません。
Bluetooth は PC 単体にその送受信機能が備わっている場合のみ使用可能です。



アプリの使い方やペアリングの方法については、それぞれのアプリを参照してください。
弊社ではアプリそれぞれの動作や操作方法については把握しておりません。



LED の点灯表示が意味する内容についてはファームウェアによって異なります。
ファームウェアは常に最新バージョンのものにアップデートしてお使いください。
(アップデートのしかたについては、弊社ウェブサイト「神楽 LSF9300」のページを参照)

動作がおかしいときは

<http://www.minoura.jp/data/trainer/smartturbo/firmware-update-instructions-2-jp.pdf>

まずは動作の基本となるファームウェアをアップデートさせましょう。デバイス側 OS やアプリは予告なしに頻繁にバージョンアップを重ねています。そのためいつの間にか新しい環境に適応しなくなり動作が不安定になってしまうことがあるのです。

上記リンクにある説明書に従ってアップデートを実行してみてください。

このサービスを受けるには、ユーザ登録をしておく必要があります。

ベルトテンションの調整

使用する工具： 3mm 六角レンチ
4mm 六角レンチ

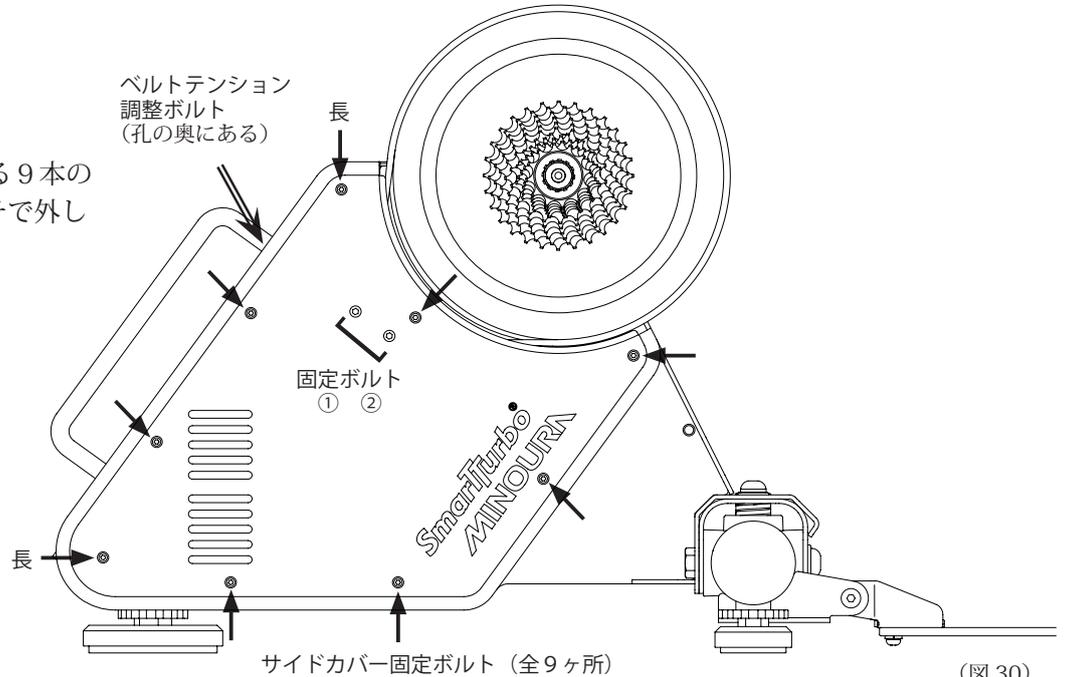
アプリから強い負荷がかかったときやペダルを強く踏み込んだときにスリップを感じるようになったら、ベルトのテンション（張り）を再調整する時期に来ています。

ベルトテンションは本体右側のサイドカバーを付けたままでもできますが（図 30）、慣れないうちはカバーを外し、中の構造を把握しながら行なうことを勧めます。（図 31）

- 1** サイドカバーを止めている 9本のボルトを 3mm 六角レンチで外します。（図 30）



2本だけ長いボルトを使っています。再組み付けの際にはご注意ください。



(図 30)

- 2** まず先に固定ボルト①および②を 4mm 六角レンチで少しだけ緩めます。

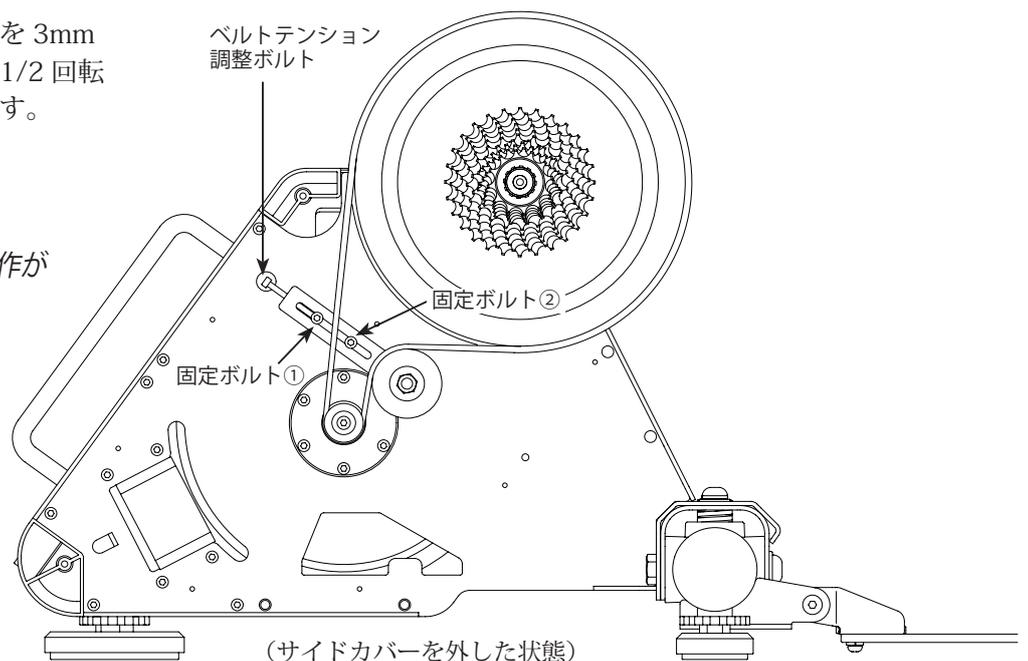


固定ボルト①は絶対に1回転以上は回さないでください。固定ボルトは調整ボルトに横から押されて保持されていますが、調整ボルトをねじ込むことで固定ボルトのねじ山は少し潰されます。そのため1回転以上回すと固定ボルト自体が回せなくなってしまうのです。

- 3** ベルトテンション調整ボルトを 3mm 六角レンチで右回りに少し（1/2 回転程度）回してベルトを張ります。



ベルトを強く張り過ぎると動作が重くなり過ぎてしまいます。適度に調整してください。



(図 31)

- 4** 固定ボルトを2本とも締め直し、最後にサイドカバーを元通りに付け直して、調整は終了です。

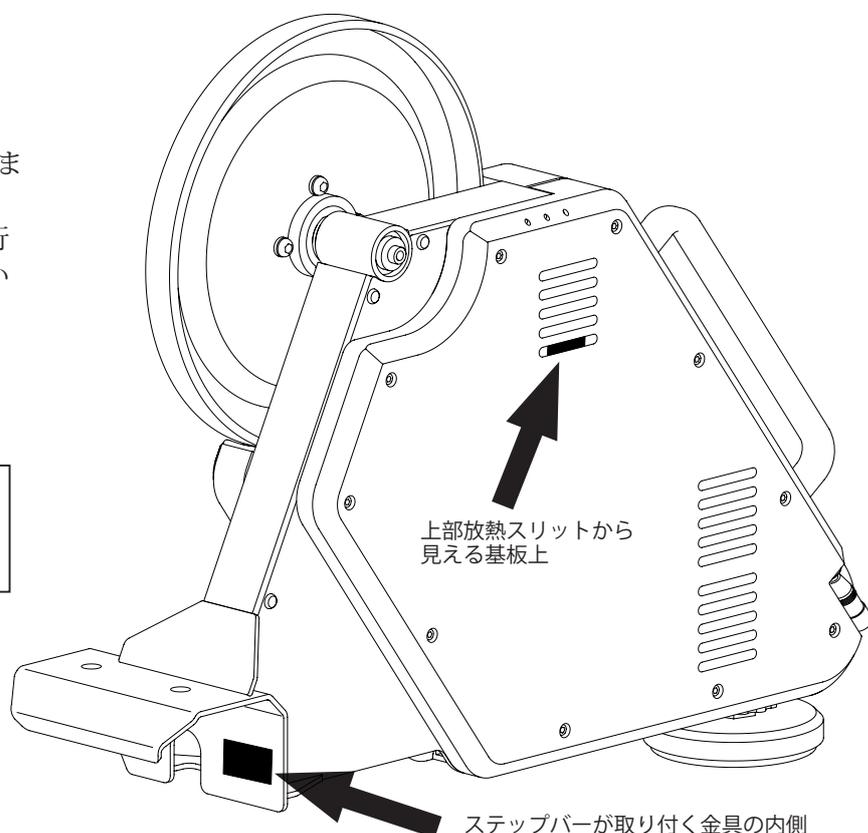
シリアルナンバーの確認

お持ちの LSF9300 には、その機体固有の番号（シリアルナンバー）がシールで表示してあります。（図 32 の矢印の 2ヶ所にあり）商品のユーザ登録をするときや、修理依頼を行なう際に必要な情報ですので、必ず控えておいてください。

<シリアルナンバーの例>

MINOURA DD SMART. C7EC
2020. LSF9300. 510180

このうち右上の 4桁の英数字の組み合わせ部分（この例では「C7EC」という部分）が、あなたの機体のシリアルナンバーとなります。



(図 32)

ファームウェアについて

ファームウェアは常に最新バージョンのものにアップデートしていただくため、「nRF-Toolbox」を iOS / アンドロイドデバイスにインストールしてください。

なおアンドロイド機については、メーカー・モデル・OS のバージョン等によりこの nRF アプリを正常に使用することができない旨が、供給元である Nordic 社から公表されています。もしうまくアップデートできないなどの問題がありましたら、弊社神楽専用カスタマーサービス兼ユーザ登録窓口（register@minoura.jp）までご連絡ください。

ANT+ レシーバについて

本機には、PC との無線通信用として ANT+ 方式で通信するための USB 接続の信号レシーバ「ANT+ ドングル」と専用 USB ケーブルを同梱しています。

ANT+ 方式で通信する際には、これを PC 側の USB 端子に挿してから LSF9300 とペアリングして使用します。



本レシーバは ANT+ 専用です。Bluetooth 用としてはお使いいただけません。



必ず付属の USB ケーブルをお使いください。その他のケーブルでの動作保証はいたしません。



本機は PC 専用です。スマートフォンやタブレットではお使いいただけません。

使い方

1. 付属の USB ケーブルに ANT+ レシーバを接続します。
2. できるだけレシーバを LSF9300 に近づけた状態（30cm 以内を推奨）で、USB ケーブルを PC に接続します。
回したクランクなどに引っかからないようケーブルを通す経路に注意してください。
3. PC が ANT+ 経由で LSF9300 を認識するまでお待ちください。
4. 13 ページにある LED 表示と PC 上で無事に接続できているかどうかを確認してください。
5. 使用準備が整いました。